



診療所だより NO.7

霞コンビナート診療所

今年の花粉飛散量は東海地方は前シーズン並に多い予想です。本格的な飛散開始はスギ花粉 2 月中旬、ヒノキは 3 月下旬となっています。飛散開始前からわずかに飛散が始まるので早めに花粉症対策を始めると良いでしょう。花粉による鼻水・鼻閉などの症状は、QOL 低下につながります。花粉対策グッズの使用、花粉を持ち込まない・近づかない、症状に応じた薬の使用など、ご自身のライフスタイルに合った方法で早めに対策しましょう。診療所では、花粉によるアレルギー症状に対して、下記の内服薬・点眼薬・点鼻薬を取り揃えており、症状に応じた対応が可能です。



診療所取り扱い薬(抗アレルギー薬)



内服薬	抗ヒスタミン薬 (鼻水・くしゃみに有効)	フェキソフェナジン塩酸塩錠 60mg ピラノア錠 20mg エバスチンOD錠 10mg ベポタスチンベシル酸塩OD錠 10mg	
	抗ロイコトリエン薬(鼻閉改善)	モンテルカスト錠 5mg	
点鼻薬	リボスチン点鼻液 ベクロメタゾン点鼻液		
点眼薬	エピナスチン塩酸塩点眼液 0.5% 5ml トラニラスト点眼液 0.05% 5ml	コンタクトレンズ装着 OK!	

上記に現在使用中の薬がない場合は、医師の診察の上、同様の効果がある薬に変更し処方することも可能ですのでご相談下さい。



花粉対策

吸わない
落とす
くっつけない



保護メガネやマスクの着用



こまめな掃除



洗濯物は部屋干しに!

家に入る時は洋服や髪をよく払って花粉を落とす

市販薬には血管を収縮させて鼻づまりを改善させる点鼻薬があります。即効性があり高い効果を得られるため、使用頻度を自己判断し、長期間使用してしまうと、薬が効きにくくなり、慢性的に鼻閉を起こした状態(薬剤性鼻炎)になります。一時的な使用は適正量を守れば問題ないですが、依存的に繰り返し長期間使用すると薬剤性鼻炎となり、耳鼻科での専門的な治療が必要になることもあります。市販薬は使用量・回数を守り、症状が改善しない場合は早めに医療機関を受診するようにしましょう。

市販の点鼻薬に注意!



感染症に注意!

診療所においても発熱や咳、胃腸症状などの症状で受診する方が増えています。インフルエンザやコロナは飛沫・接触感染のため、こまめな手洗い・うがい、マスクの着用など場面に応じた対策を引き続き行いましょう。万が一発熱などの症状がでた場合は診療所でも抗原検査(コロナ・インフル)および症状に応じた対処療法薬の処方も可能です。